

日本情報科教育学会第1回全国大会報告

日本情報科教育学会副会長 九州工業大学教授 西野 和典

1. はじめに

日本情報科教育学会は、情報教育を推進する多くの教員、研究者、支援する組織・企業の後押しを受けて2007年12月に設立された。日本で初めて組織された情報科の教科教育学会である。設立後すぐに、研究部会、委員会組織を立ち上げ、シンポジウムを開催するなど、情報教育の研究・実践を交流する拠点としての役割を果たすべく活動を開始した。そして、誕生後わずか半年を経た2008年6月28日（土）、29日（日）に、滋賀大学教育学部において、第1回目の全国大会を開催することができた。本稿では、その日本情報科教育学会第1回全国大会の様子を報告する。

2. 実施概要

全国大会は、以下のようなスケジュールおよび内容で開催された。

日 時：2008年6月28日（土） 9：30～17：00

6月29日（日） 9：30～16：30

場 所：滋賀大学・大津キャンパス（教育学部），
滋賀県大津市平津2-5-1

後 援：文部科学省、滋賀県教育委員会

共 催：滋賀大学教育学部

プログラム：

<p>第1日：6月28日（土）</p> <p>8：50～9：20 受付</p> <p>9：30～12：00 一般講演</p> <p>12：00～13：00 （昼休み）</p> <p>13：00～13：10 挨拶 成瀬龍夫（滋賀大学学長）</p> <p>13：10～13：50 総 会</p> <p>14：00～14：30 基調講演 岡本敏雄 （本学会会長、電気通信大学大学院教授） 「情報科教育学の体系化を目指して」</p> <p>14：40～15：30 招待講演 安藤慶明 （文部科学省 初等中等教育局 参事官） 「情報教育の現状・課題と展望」</p> <p>15：40～17：00 パネルディスカッション1 テ ー マ：情報科教育の新しい展開 司 会：松原伸一（滋賀大学） 話題提供：永井克昇（文部科学省初等中等教育局 視学官） パネリスト：小泉力一（尚美学園大学） 松田稔樹（東京工業大学）</p> <p>18：00～20：00 懇親会 会場：大津プリンスホテル</p>	<p>第2日：6月29日（日）</p> <p>8：50～9：20 受付</p> <p>9：30～12：00 一般講演／ワークショップ</p> <p>12：00～13：00 （昼休み）</p> <p>13：00～13：10 挨拶 吉川栄治（滋賀大学教育 学部長）</p> <p>13：10～14：20 招待講演 宗平順己 （㈱オーガス総研 技術部長） 「今求められているIT人材と情報科教育 への期待」</p> <p>14：30～16：30 パネルディスカッション2 テ ー マ：情報のモラルと安全 司 会：田中規久雄（大阪大学） パネリスト：石原一彦（岐阜聖徳学園大学） 江守恒明（富山県立砺波高等学校） 佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等 学校）</p> <p>16：30 閉会</p>
--	---

3. 大会の特徴と参加状況

梅雨の蒸し暑い中、全国各地から約200名が参加した。参加者のうちの約3分の1が、小・中・高校および教育委員会関係の先生（以下、小中高教員と記す）であり、小中高教員の中でも高校教員が最も多かった。通常、情報関連の学会で情報教育の研究会やシンポジウムを企画しても、参加者の多くは大学の研究者である。他の学会とは異なり、小中高教員の参加率が高いことが、本学会の全国大会の特徴であろう。大会の一般講演においても、47発表中22が小中高教員からの発表であり、大会講演論文集の論文の執筆者のうち39名が小中高教員であった。大会実行委員会の委員も、22名中10名が小中高教員であり、多くの小・中・高等学校の現職教員に支えられて本全国大会は企画・準備・運営された。

小中高教員（正会員）の参加費を無料にして参加しやすくするとともに、学校教育が直面する課題をパネルディスカッション等で取り上げる、授業に役立つ実践的な知識や技能習得をテーマにワークショップを実施するなど、小中高教員にとって魅力ある企画を積極的に取り入れて実施した。

4. 基調講演と招待講演

(1) 基調講演

基調講演は、本学会会長で電気通信大学大学院の岡本敏雄教授が行った。

- ・ Through ICT (eラーニングのようにICTを介して様々な学習を行うこと)
- ・ With ICT (ICTを問題解決や学習、コミュニケーションの手段として活用すること)
- ・ About ICT (ICTそのものについてその原理を理解し、正しい使い方や発展的な使い方を学ぶこと)

の3つの観点を説明し、教科「情報」の目標論としては「About ICT」、手段として「Through ICT」と「With ICT」が不可欠であり、教科「情報」においてはこれら3つのバランスが大切であることを述べた。さらに、英国など諸外国の情報

教育の内容・方法と特徴を提示し、本学会を基軸として日本の情報科教育の基盤を確立する必要性が示された。

(2) 招待講演

大会初日の招待講演は、文部科学省初等中等教育局の安藤慶明参事官（当時）が、改訂される学習指導要領の趣旨と概要、情報教育の位置づけについて解説があり、学校のICT環境の整備、教員のICT指導力の向上、校務の情報化、情報モラル教育等についての現状と課題についての解説があった。また、最後に、本学会への期待が示され、今後の学会活動の方向を見極める上で示唆に富む内容の濃い講演であった。

2日目の招待講演は「今求められているIT人材と情報科教育への期待」と題したもので、株式会社オージス総研の宗平順己氏を招き、IT人材育成の視点から情報科教育への期待や要望についてお話しいただいた。まず、企業情報システムの歴史的発展段階の説明があり、次に、システム開発のプロセスやITスキル標準等の規準を示しながら求められているIT人材についての説明があった。最後に情報科教育に対する期待として、「正しいIT利活用能力の育成」「コミュニケーション能力」「正しいインターネット文化の継承」「小集団活動による改善提案能力」などの育成が示された。



5. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、今日的でタイムリーな情報科教育のテーマを2件企画した。

(1) パネルディスカッション1 (情報科の新しい展開)

大会初日には、「情報科の新しい展開」と題して普通教科「情報」に焦点を当ててパネルディスカッション1を実施した。まず、文部科学省初等中等教育局の永井克昇視学官が、話題提供として、2008年1月の中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」の中で示された小・中・高等学校段階を通じた情報教育の位置付けについての解説を行った。さらに、普通教科「情報」と専門教科「情報」の趣旨と目標を解説し、内容の方向性についての説明が加えられた。

続いて、尚美学園大学の小泉力一先生が「情報の科学」の視点から、東京工業大学大学院の松田稔樹先生が「社会と情報」の視点から、それぞれ情報科教育の新しい展開について説明があった。その後、短時間ではあったが、会場内の全員でディスカッションを実施した。

(2) パネルディスカッション2 (情報のモラルと安全)

2日目のパネルディスカッション2では、3人のパネラーから問題提起が行われた。最初は、岐阜聖徳学園大学の石原一彦先生が「情報モラル教育の全面実施に向けて」と題して、情報社会の危険や恐怖をあおるだけの「情報安全指導」から、よりよい情報社会への進むべき方向を示すような情報モラル教育が求められていることを述べ、

「失敗例」を中心に作成するネガティブな情報モラル教材から、「あるべき姿」を児童生徒に提起するポジティブな情報モラル教材の開発が求められることを唱えた。

次に、富山県立砺波高等学校の江守恒明先生が「情報モラル指導の実際と課題」と題して、掲示板やwiki, blogが利用できるグループウェアを利用した情報モラル指導の実践を紹介した。さらに、情報モラルの指導は、「知る」(自分を守るすべを知るなど)→「できる」(法律を知り、遵守することができるなど)→「持つ」(相手を思いやる気持ちを持つなど)の3つのステップが必要であることを説明した。

最後に、兵庫県立西宮今津高等学校の佐藤万寿美先生が、「使うな」「持たすな」ではなく「いかに使いこなせるか」という視点で「情報モラル・情報安全教育」を実施すべきで、その期待と責任は大きいことを述べた。その上に立って、西宮今津高校で実践している「保護者同伴の情報安全教育」や授業前に実施する「情報モラルの小テスト」の紹介があった。さらに、「学校裏サイト」に関する生徒の実態調査結果を公表して、情報モラルと安全教育の必要性を唱えた。

その後、参加者からの質問を受け付け、その質問にパネリストが回答・コメントする形式でディスカッションを実施した。株式会社ネットマンのコミュニケーション支援システム「c-learning」のサービスを利用させていただき、参加者が各パ

ワークショップI

会場：第1情報演習室(定員50名)

テーマ：①情報の科学的な理解を促進するためのプログラミング学習

(内容) HSPなど2つのプログラミング学習を紹介し、実際に参加者が体験して授業での導入について考える。

講師：鹿野利春(石川県立金沢泉丘高等学校 教諭)
天良和男(東京都立日比谷高等学校 教諭)

ワークショップII

会場：第2情報演習室(定員38名)

テーマ：②IT人材育成プロジェクトの実践報告(京都すばる高等学校の事例)

(内容) 情報の専門学科を持つ京都すばる高等学校のIT人材育成プロジェクトの実践を報告し、ゲーム制作の体験実習を行う。

講師：小西良尚(京都府立京都すばる高等学校 教諭)ほか

ワークショップⅢ

会場：第29講義室（定員30名）

テーマ：③普通教科「情報」担当教員のためのネットワーク講座

（内容）普通教科「情報」担当の先生方の教材作成と研修を目的として、ネットワークの仕組みからTCP/IP通信の基礎を実習で学ぶ。

講師：滝川裕介（アライドテレシス株式会社 関西支社大阪事業所SEグループシニアマネージャー）他

ネリストの説明を聞きながら、「c-learning」の掲示板に自分の携帯電話で質問や感想を書き込む形式で実施した。プロジェクトで質問内容を表示できるため、類似した質問は整理して回答するなど、効率よく質疑応答を実施することができた。

6. ワークショップ

全国大会と並行して、大会2日目の6月29日（日）9：20～12：00に、滋賀大学教育学部地域教育支援室と近畿情報教育連合の共催を得てワークショップを開催した。ワークショップは3会場に分かれ、並行して行われた。ワークショップの企画にはかなり時間をかけ以下の3つの分野に絞り、参加者が実習で学ぶことができるように工夫した。

- ①情報の科学的な理解を促進するためのプログラミング学習
- ②IT人材育成プロジェクトの実践報告（京都すばる高等学校の事例）
- ③普通教科「情報」担当教員のためのネットワーク講座

当日は、3会場で合計30名が参加し、参加者にはワークショップの学会から参加修了証を授与した。

7. 一般講演

一般講演発表は、両日とも午前中に実施し、6月28日（土）は4会場（合計31発表）、6月29日（日）は2会場（合計16発表）を並行して実施した。一般講演を内容別にまとめると、教育実践（7件）、ICT活用（8件）、情報倫理・情報モラル（4件）、教材開発（4件）、インストラクショナル・デザイン（4件）、カリキュラム（4件）、情報教育（4件）、国際交流（4件）、教育システム（4件）、メディア（4件）であった。いずれも12分間の発表後に質疑が行われ、議論が白熱した会場も少なくなかった。



8. おわりに

日本情報科教育学会は、創立1年に満たない学会である。それゆえ、財政的な面で全国大会を開催するには困難な状況であった。しかし、実教出版株式会社をはじめ多くの企業・団体から、全国大会講演論文集への広告掲載（9社）、別紙広告配布（1社）、会場展示（8社）を通じてご支援をいただき、大会を開催することができた。ご協力いただいた企業・団体に心より謝意を表したい。

2008年秋には、新しい高等学校学習指導要領が出され、2009年には次期教育課程における教科「情報」の内容の詳細が発表されるであろう。新しいカリキュラムに対応する、教育方法や教材の開発、評価、教育環境の整備、小・中学校の情報教育との接続など課題が山積している。このような課題に対する皆様方の実践や研究の発表、情報提供・交流の場としての役割を本学会が果たし、情報科教育の新しいステージを迎えることができるよう、学会活動を活性化させて参ります。

<入会等本学会に関するお問合せ先>

Webページ：<http://www.jaeis.org>

事務局：TEL：03-5155-7576

FAX：03-5155-7578